

三郷市市民パブリック・コメント手続の結果の公表

1 題名

三郷市立小・中学校の学校指定に関する規則の一部を改正する規則（案）

2 案の公表の日

令和7年5月27日（火曜日）

3 意見提出期間

令和7年5月27日（火曜日）から6月26日（木曜日）まで

4 意見提出人数

1名

5 提出意見並びに提出意見を考慮した結果及びその理由（提出意見は、個人や団体が特定されるおそれのある表現を除き、原則として原文のとおり掲載）

番号	提出意見	提出意見を考慮した結果及びその理由
(1)	栄中学校区域の中学生数の増と前川中学校区域の中学生数の減を勘案し、両校生徒の教育環境等の変化の影響をできるだけ少なく調整しようという考え方で方針が策定されていることは理解できる。 しかし、令和4年以降、三郷市の出生数1,000人を下回っており、令和4年以降に出生した子どもが中学生になる約12年後の各中学の生徒数やクラス数を推定すると、中長期的には今回のような考え方では解決できないのではないだろうか。 子どもの数の減少が進むことが顕著な傾向としてある中で、現在の学校数を維持しようとするれば、少人数の小規模校に向かうことになる。小規模校は、教育面ではいろいろなメリットもあって否定するものではないが、公共施設の維持管理など、三郷市全体の視点で考えた場合には、必ずしもメリットだけではないのではないか。	三郷市立小・中学校教育環境整備計画（令和2年3月改定）では、近年の三郷中央地区における人口増加の影響によって、栄中学校は生徒数が増加傾向になる一方、前川中学校は減少傾向になると推計しております。このことを踏まえ、学校の適正規模・適正配置の観点から、隣接する両校の通学区域を変更することとしました。 三郷中央地区以外の地域では、全国的な動向と同様に少子化が進んでおります。学校の小規模化には、一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導を行いやすいこと、児童生徒間の人間関係が深まりやすいこと、学校が一体となって活動しやすいことなどの面がございますが、多様な考え方に触れる機会が少なくなりやすいこと、人間関係や相互の評価等が固定化しやすいことなどの面もございます。 三郷市教育委員会では、児童生徒により良い教育環境を提供するために、引き続き三郷市

	三郷市の教育や三郷市にとって、どのような学級児童数、学級数、そして何より学校数が望ましくふさわしいかというマクロ的な視点、視野を加味した方針策定が望まれる。	立小・中学校教育環境整備計画に基づき、学校と地域とのつながりについても配慮しながら学校の適正規模・適正配置を進めてまいります。
--	---	--